

まだらの風



令和6年11月12日
学校便り No.14
校長 原口 真

『 見つけよう自分らしさ、認めよう仲間の良さ、高めよう馬渡の力 』
～自分を愛し、周りの人を愛し、島を愛する児童生徒に～

11月14日(木)開催の島内駅伝に向けて、実際のコースとなる漁港から郵便局前の道路を試走しました。スポーツの秋、体を鍛えるには絶好の季節です。当日は沿道からの声援よろしくお願いいたします。

読書の秋～図書週間イベントを実施しました～



読書の秋です。11月5日(火)～8日(金)まで、馬渡小中学校でも図書週間として読書イベントを実施しました。小学生が図書委員となって全校児童生徒に参加を呼びかけました。「図書クイズ」の全問正解をめざして図書室にある指定図書を探したり、「多読チャレンジ」で多くの本を借りようとしたりするなど、普段よりたくさん子どもたちで図書室がにぎわいました。

8日には「青空読書」を実施し、秋晴れの空の下、校舎外に設置したベンチで読書を楽しむ姿が見られました。この時期は夜が長くなり、ゆっくり本を読むのに適していることから「読書の秋」と呼ばれます。ご家庭でもそれぞれに読書にチャレンジされてみてはどうでしょう？学校の図書室から貸出できますのでご利用されてみてください。



ピカピカ馬渡へ第一歩～田尻海岸を清掃しました～

11月7日(金)、田尻ヘリポート近くの海岸でゴミ拾いをしました。小学4、5、6年生の呼びかけに応じてくれた保護者さんに先生も加わり十数名での活動となりました。海岸に出てみてゴミが多いことに驚かされます。南側の馬渡漁港周辺ではあまり目立ちませんが、東側の海岸には発砲スチロール、ペットボトル、ブイ、空き缶など相当量のゴミが打ち上げられてます。波にうちつけられテトラポッドや岩場にはしまったゴミは取りだすのもひと苦労です。90分ほど活動したところ、ゴミの総量はなんと44袋分にもなりました。今回拾ったゴミを材料にして馬渡の良さをアピールする作品に生まれ変わらせる予定です。海洋漂着物、特にマイクロプラスチックが生態系に与える影響は世界的に危惧されており、馬渡島でも主産業の漁業と大きな関わりがあります。持続可能な循環型社会を実現するためにできることは何か、子どもたちが気づき考え行動する姿がこれからの社会を変えてくれることを願ってやみません。



馬渡島の歌が完成！レコーディングに向けて練習中です

10月25日(金)、公益社団法人 ON THE ROAD の徳丸英器さんが作詞・作曲を進めてくださった「まだらだから（馬渡宝）」のデモ曲が紹介されました。歌詞の中には、田尻、コンカワ、漁船、教会など馬渡島ならではの言葉がちりばめられています。給食のBGMとして流しながら「番所の辻から見えどこまでも続く空と海と今ここに立つ島の緑を」というサビの部分歌えるように練習しています。子どもたちの歌声が響き、島民のみなさんの元気につながることを願っています。



サツマイモほり～夏の暑さをのりこえずくすく成長～

10月30日(水)、学校菜園のイモほりを行いました。6月に芋苗を植えてから4カ月ほどが経過し、イモづるの状態をみて掘りごろを判断します。中学1、2年生が作業しているところに小学1、2年もお手伝いに来てくれました。この夏の酷暑のため無事に育っているか心配されましたが、子どもたちがこまめに水やりを続けておかげで、たくさんのサツマイモを掘り出すことができました。収穫したイモは焼きイモ(またはふかしイモ)にして全校で味わいたいと思います。

